佐賀大学地域学歴史文化研究センター
自己点検・評価報告書
（平成22年度）

平成23年10月

1. 地域学歴史文化研究センターの目的・目標

(1) 目的・目標

21世紀社会には、新たな学問体系が求められている。佐賀は19世紀後半、近代西欧文明・学問体系を受容した。それがどのような歴史文化を基盤としていたのか、また定着し展開したのかは、現在問われるべき重要な課題である。

佐賀大学が国立大学法人化を迎えるにあたり設定した理念・中期目標・中期計画のなかに、「社会が要請する研究分野を担当する文理融合型の研究センター設置を目指す」、「地域住民・市民と大学との地域連携研究を推進し、新たに『地域学』を創出する」とある。

本センターはこれを実現するために、平成18年4月に設立された。従って、本センターの目標は、以下の通りである。

1) 本学における文系基礎学の基盤整備を図り、充実・発展させること
2) 地域(佐賀)の歴史文化の固有性と普遍性を探究すること
3) 新たな学問体系としての地域学を創造すること
4) 本学の学問大系に新たな方向性(価値観・世界認識)を提示すること

この目標実現のため、以下の具体的な研究活動・事業を展開している。

(2) 基本的研究活動・事業

1) 地域(佐賀)の歴史文化資料の調査・収集と研究
2) プロジェクト(研究)の設定・企画・運営
3) 諸データベースの作成
4) 「研究紀要」「史料集」「図録」の刊行(企画・編纂)を行い、広く学会等へ調査・研究成果を公表していくこと
5) 講演(会)・講座・シンポジウムの開催(企画・設定)
6) 地域文化交流協定等による博物館等の特別展示の企画立案、共催事業の展開等により、本学(学生・教職員)及び地域社会へ研究成果を提供すること
7) ホームページによるタイムリーかつ簡便な地域歴史情報を広く提供すること

2. 地域学歴史文化研究センターの概要

(1)設立経緯

佐賀大学では、平成16年(2004)より学長経費による文系基礎学研究プロジェクトを開始した。附属図書館所蔵小城鍋島文庫を調査・公開することと、平成15年2月に結ばれた佐賀大学と小城町(現小城市)との地域文化交流協定事業の支援として、平成16年8月に特別展「小城鍋島藩と島原の乱」を開催し、同図録を刊行した。平成17年には、特別展「小城鍋島家の近代」を開催し、同図録を刊行した。これらの歴史文化研究と地域貢献事業の発展上に、さらには前述の通り佐賀大学中期計画・目標を達成するために、地域学歴史文化研究センターが平成18年4月に設立された。

(2)センターの概要

1)本センターは、地域(佐賀)の歴史文化の固有性と本学文系基礎学研究の現状を踏まえて、考古学、国文・文献学、洋学・思想史、地域史・史料学の4研究部門に専任・併任教員を配置し、地域学創出に向けた研究をすすめている。

2)各研究部門長は、部門のプロジェクトを運営し研究を推進する。

3)研究拠点として、平成18年10月佐賀大学本庄キャンパスに竣工した菊楠シュライバー館を使用し、市民・学生向けの閲覧室・展示室を常備している。

4)教職員構成は以下の通り(平成23年4月現在)

センター長	1名
専任教授	1名
専任准教授	1名
併任教授	1名
併任准教授	1名
併任講師	2名
特命教授	8名
教務補佐員	1名
事務補佐員	1名

5)部門別構成は以下の通り(平成23年4月現在)

考古学研究部門	重藤　輝行併任講師(部門長、文化教育学部)
国文・文献学研究部門	白石　良夫併任教授(部門長、文化教育学部)
地域史・史料学研究部門	伊藤　昭弘専任准教授(部門長)
	石川　亮太併任准教授(経済学部)
	鬼嶋　　淳併任講師(文化教育学部)
洋学・思想史研究部門	青木　歳幸専任教授(部門長)

6）歴代教職員（肩書きは当時のもの）

○センター長

宮島　敬一（経済学部教授）　平成18年4月～19年2月

古賀　和文（副学長・理事）　平成19年3月～7月（センター長事務取扱）

高﨑　洋三（医学部教授）　平成19年8月～22年3月

半田　駿　（農学部教授）　平成22年4月～

○副センター長

飯塚　一幸（文化教育学部助教授）　平成18年4月～19年3月

青木　歳幸（センター専任教授）　平成19年4月～

○部門長

考古学研究部門

佐田　茂　（文化教育学部教授）　平成18年4月～20年3月

重藤　輝行（文化教育学部講師）　平成20年4月～

国文・文献学研究部門

井上　敏幸（文化教育学部教授）　平成18年4月～20年3月

生馬　寛信（文化教育学部教授）　平成20年4月～22年3月

白石　良夫（文化教育学部教授）　平成22年4月～

洋学・思想史研究部門

青木　歳幸　平成18年4月～

地域史・史料学研究部門

飯塚　一幸　平成18年4月～19年3月

伊藤　昭弘（センター専任講師）　平成19年4月～

○専任教員

教授　青木　歳幸　平成18年4月～

講師　伊藤　昭弘　平成18年4月～19年11月

准教授　伊藤　昭弘　平成19年12月～

○併任教員

佐田　茂　平成18年4月～20年3月

井上　敏幸　平成18年4月～20年3月

飯塚　一幸　平成18年4月～19年3月

石川　亮太　平成18年7月～

鬼嶋　淳　平成19年10月～

重藤　輝行　平成20年4月～

生馬　寛信　平成20年4月～22年3月

白石　良夫　平成21年4月～

○特任教員（平成21年4月より特命教員に改称）

井上　敏幸（佐賀大学名誉教授）　平成20年4月～

鈴木　一義（国立科学博物館理工学研究部主任研究官）　平成20年10月～

松田　清　（京都大学大学院人間環境学研究科教授）　平成20年10月～

村上　隆　（京都国立博物館保存修理指導室長）　平成20年10月～

長野　暹　（佐賀大学名誉教授）　平成21年4月～

生馬　寛信（佐賀大学名誉教授）　平成22年4月～

平井　昭司（前東京都市大学教授）　平成22年4月～

ミヒェル・ヴォルフガング特命教授（九州大学名誉教授）　平成22年4月～

○非常勤博士研究員

野口　朋隆　平成20年5月～23年3月

○教務補佐員

伊藤　彰子　平成18年4月～19年11月

亀井　森　平成19年11月～22年3月

大塚　俊司　平成20年5月～

○事務補佐員

古賀　亜紀　平成21年4月～

3．22年度の活動に関する自己評価

(1)教育

ア)教養教育を所管する教養教育運営機構との連携をすすめた。具体的には専任教員による教養教育授業担当(2名が年2～3コマずつ)、教養教育運営機構役員(教務委員、教務副委員長)就任などである。

イ)上記のほか、大学コンソーシアム授業開講や、e―ラーニング、文化教育学部での地域学関連専門科目開講など、学内他部局と連携し教育活動を実施した。

ウ)センター内に閲覧室を設け、歴史・文化・郷土史関係の書籍・資料を約2000点配置し、学生・市民の利用に供したほか、研究成果を展示室にて公開した。

エ)公開講座を開講し、市民向けの地域学教育を図った。

オ)佐賀県立図書館との共催で市民向けの古文書講座を6回開催した。

〈自己評価〉

本センターは研究を専門としており、設立以来特に目標を定めていない。しかし当初より研究成果の教育活動への活用を意図してきた。具体的には大学教養教育における地域学教育を構想し、上記の通り教養教育機構との連携を図った。今後も地域学教育の確立に向けた努力をすすめていく。

社会教育の面では、市民参加型の古文書講座や公開講座を開催し、地域学の有効性や史料保存の重要性について、市民の理解が深まるよう努めた。

(2)研究

ア)「小城の研究プロジェクト」を進め、成果を小城市との共催展「小城の教育と地域社会」で市民に還元したほか、研究図録を刊行した。

イ)地域学歴史文化研究センターで収集した史料の研究・公開推進のため、史料集『歴史に埋もれた名医　徳永雨卿』を刊行した。

ウ)地域学研究の基礎的情報を蓄積するため、深江家・山本家・福源寺の史料調査を実施した。また佐賀県立図書館と、同館所蔵の北川家史料など地域史料の共同調査を実施した。

エ)学内プロジェクト「「佐賀学」創成にむけた地域文化・歴史の総合的研究」が最終年を迎え、その成果として研究論集『佐賀学』を刊行した。

オ)前掲「「佐賀学」創成にむけた地域文化・歴史の総合的研究」の一環として地域学シンポジウムを開催し、地域の歴史遺産保存における大学の役割について議論した。またその成果を、報告書として刊行した。

カ)所属教職員の研究成果をまとめた研究紀要第5号を刊行した。

キ）青木歳幸教授は科研費基盤研究（B）「佐賀藩の反射炉築設・鉄製大砲鋳造技術に関する研究」（平成20～22年度、22年度100千円）、武田杏雨書屋学術奨励金「曲直瀬家門人帳による近世前期医学史の研究」（研究代表者、平成22～23年度、500千円）を獲得した。伊藤昭弘准教授は基盤研究（S）「大規模自然災害時の史料保全論を基礎とした地域歴史資料学の構築」（研究分担者、平成21～25年度、22年度100千円）を獲得した。

〈自己評価〉

本年度は、研究論集『佐賀学』の刊行など、大きな成果をあげることができた。今後はこれらの成果をもとに、さらに佐賀学の充実、地域学の創出を目指す。

（3）国際交流・地域貢献

ア）小城市教育委員会との共催展「小城の教育と地域社会」を開催し、佐賀大学附属図書館『小城鍋島文庫』の研究のほか、センターにおける研究成果を市民に公開した。

イ）上記共催展に伴い講演会を3回開催した。

ウ）鹿島市・祐徳博物館などの協力を得、企画展「黄檗文化と鹿島藩」展を開催した。

エ）学内プロジェクト「「佐賀学」創成にむけた地域文化・歴史の総合的研究」の一環として、佐賀県における地域歴史遺産保存を推進するためシンポジウムを開催し、その報告書を刊行した。

オ）佐賀県立図書館・小城市・鹿島市と協力しての史料調査を実施し、その成果をデータベース「佐賀県歴史データベース」で公開すべく準備をすすめている。そのうちセンターで整理を進めている山本家文書について、一部公開を開始した。またデータベースでは、佐賀県内の遺跡データをまとめた「遺跡データベース」、大正期以降の佐賀県における事項をまとめた「佐賀大正・昭和期年表データベース」を準備している。

カ）公開講座「佐賀学のススメ」を6回企画・開催し、有料にもかかわらず30名近くの参加者があった。

キ）みやき町の公開講座に協力し、センターより講師を派遣した。

ク）ホームページを公開し、センター事業の紹介や研究成果の発表を行った。

〈自己評価〉

展示・講演会・公開講座の開催による研究成果の市民・地域社会への還元、史料調査やシンポジウムなど地域歴史遺産保存のための活動など、センターでは多くの地域貢献活動を実施し、佐賀大学においても特筆すべき成果といえる。特に展示については、「研究」の項でも述べたが、大学における研究の成果を地域に還元するモデルケースとなり得るであろう。史料保存についても、講演会・シンポジウムを契機として、佐賀市などで資料保存の取り組みが生まれつつある。このように、センターの活動は地域に様々な影響を与えており、高く評価できる。

国際交流については、今年度は特に活動が無かったが、23年度以降、中国の研究者との国際

シンポジウムを予定している。

(4)組織運営

ア)平成23年4月現在センター長以下専任教員2名、併任教員4名、特命教員8名、教務補佐員1名、事務補佐員1名を配置し、センター長を中心とした円滑な組織運営・研究活動に努めている。また、文化教育学部や教養教育機構、附属図書館等、他部局との連携も進めている。

イ)各学部から選任された委員、附属図書館長・総合情報基盤センター長など本センターの業務に関わる部局の部局長など学長が必要と認めた委員、本センター長・副センター長・専任教員・部門長により構成する運営委員会(学部の教授会に相当)を3回開催し、センター運営に関わる事案の審議を行った。各年度の開催回数は以下の通り。

ウ)センター専任・併任教員による会議を2ヶ月に1度開催し、センターの運営について検討した。

エ)所蔵図書・資料は増加しているが、菊楠シュライバー館の狭隘化は解決していないため、早急な対応を取る必要がある。

オ)貴重資料が保管されているので、セキュリティ確保のため、業者に夜間警備を依頼しているが、火災への対応は全く施されておらず、防火設備の充実もしくは貴重資料の別置を検討する必要がある。

〈自己評価〉

財務面も含めた組織運営は円滑にすすんできたが、今後は研究推進のため、学内教員、自治体の文化財担当者・学芸員、市民団体など地域社会との連携が今以上にできるよう、体制作りをすすめていく。施設面では、現状の菊楠シュライバー館では研究活動に支障が出かねないだけでなく、所蔵・借用している古文書など貴重な地域の文化財を失う可能性さえある。そのため来年度は有償ながら同館以外に研究室・書庫を確保し、漸次資料を移動する予定である。

4. 事業一覧　　個人の肩書はすべて当時のもの

A）展示

①特別展

○主催・共催

「小城の教育と地域社会」（地域学歴史文化研究センター・小城市教育委員会共催、10月23日～11月21日、於　小城市立歴史資料館）

○後援

特別展「黄檗文化と鹿島藩」（「黄檗文化と鹿島藩」実行委員会主催、地域学歴史文化研究センター・鹿島市など後援、5月12日～6月2日、於　祐徳博物館）

②センター展示室（菊楠シュライバー館1F）におけるミニ展示

○常設展

「写真にみる旧制佐賀高校」

B）講演会

特別展「小城の教育と地域社会」記念講演会（小城市教育委員会主催、地域学歴史文化研究センター協力、10月24日、30日、11月13日、於　小城市立歴史資料館）

生馬寛信（佐賀大学名誉教授・センター特命教授）「佐賀県の教育と小城」

野口朋隆（センター非常勤博士研究員）「小城藩日記からみる興譲館教育の様相」

高山節也（二松学舎大学教授）「小城鍋島文庫漢籍からみる興譲館の教育」

「黄檗文化と鹿島藩」記念講演会（「黄檗文化と鹿島藩」実行委員会主催、地域学歴史文化研究センター・鹿島市など後援、5月15日、於祐徳稲荷神社参集殿）

錦織亮介（北九州大学名誉教授）「鹿島の黄檗寺院と美術」

井上敏幸（佐賀大学名誉教授、センター特命教授）「黄檗僧と鹿島藩の人々」

C）シンポジウム

第三回地域学シンポジウム「地域学と歴史文化遺産―地域と大学―」（地域学歴史文化研究センター・佐賀学創成プロジェクト共催、9月4日、於　理工学部六号館都市工学科大講義室）

基調講演

村上　隆（京都国立博物館保存修理指導室長・センター特命教授）「地域と歴史文化遺産―世界遺産石見銀山遺跡から考える」

報告

伊藤昭弘（センター准教授）「地域学歴史文化研究センターの事業と歴史文化遺産」

D）公開講座など

佐賀大学公開講座（センター企画）「佐賀学のススメ」（平成22年10月～23年3月、全6回、於　佐賀大学附属図書館）

E）調査

伊万里市・山本家文書（酒造業、佐賀県県議など、約1万5千点）

センター所蔵大内文庫（大内初夫氏収集の典籍類、約600点）

鹿島市・福源寺（黄檗宗、典籍類、約500点）

佐賀市・深江家文書（佐賀藩士、約1000点）

佐賀市・北川家史料（佐賀市長石丸勝一関係史料、佐賀県立図書館寄託、同館と共同調査、約2万点）　平成21年度～

F）刊行物

青木歳幸編『小城の教育と地域社会』

中尾友香梨（文化教育学部講師）編『歴史に埋もれた名医　徳永雨卿』

佐賀学創成プロジェクト編『第3回地域学シンポジウム「地域学と歴史文化遺産」』

『佐賀大学地域学歴史文化研究センター』第5号

佐賀大学・佐賀学創成プロジェクト編『佐賀学　佐賀の歴史・文化・環境』

G）研究プロジェクトなど

○佐賀大学学内研究プロジェクト

「佐賀学」創成にむけた地域文化・歴史の総合的研究」（代表青木歳幸（センター専任教授）、学内教員21名が参加、平成20年度～22年度）

○センター内研究プロジェクト

小城市との研究プロジェクト「小城の教育」・（代表生馬寛信佐賀大学名誉教授、平成21年2月～22年12月）

○産学官連携事業

「佐賀県内歴史データベース構築事業」（代表伊藤昭弘センター専任准教授、佐賀県・鹿島市・小城市などと連携、平成21年1月～26年3月）

H）外部資金

○科学研究費補助金

青木歳幸　基盤研究（B）「佐賀藩の反射炉築設・鉄製大砲鋳造技術に関する研究」（平成20～22年度、22年度100千円）

伊藤昭弘　基盤研究（S）「大規模自然災害時の史料保全論を基礎とした地域歴史資料学の構

築」（研究分担者、平成21～25年度、22年度100千円）

〇武田杏雨書屋学術奨励金

青木歳幸「曲直瀬家門人帳による近世前期医学史の研究」（研究代表者、平成22～23年度、500千円）。

I）教育関係

〇授業担当（専任教員）

・青木　歳幸専任教授

◇教養教育

「地域の蘭学」

「江戸時代の医学と医療」

「医療科学史」

「佐賀学入門」）

◇大学コンソーシアム

「佐賀の蘭学」

◇e・ラーニング

「チャレンジ佐賀学」

◇文化教育学部

「日蘭文化交流史論」

・伊藤　昭弘専任准教授

◇教養教育

「近世日本の社会と経済」

「近世日本の地域社会」

「佐賀学入門」

◇文化教育学部

「西日本地域史論」